



共 育

能登地方も梅雨入りの季節となりました。

学校ではプール開きも終わり、子どもたちはプールの授業を楽しみにしています。プール使用の可否は、その日の天候や、水泳の授業に適した水温(22~23℃以上)でなおかつ気温との差があまり大きくないことを目安としています。ここ数日はこの条件をクリアする日が少なくみんなヤキモキしています。

今後、天候も安定しプールの授業が多くなると予想されますが、安全に気をつけながら子どもたちの泳力の向上に努めてまいります。

<今年度、力を入れている教育活動>

縦割り班活動を通して児童の「進んで取り組む」態度を育てる

本校では、1年から6年までを赤・黄・白・青の4つの団に分けて活動を行っていることは運動会などでご紹介したところです。その各団をさらに1グループ5~6人にし、6年または5年がリーダーを務める各学年混合の縦割り小グループを編成して様々な活動に取り組んでいます。

ねらいは、小グループ化することで5,6年生のリーダーとしての責任をさらに明確にすること、下の学年をいたわりながら活動に取り組む経験を積ませること、自分たちで決めて責任を持って行動する意識を育てること、そして下の学年は、5,6年生の姿を通して上級生へのあこがれや目標となる具体的な姿をイメージできるようにすることなどがあげられます。

～ 実際の活動から ～

6月14日(水) 「花植え集会～心に花を咲かせようプロジェクト～」より

この日、全校が縦割り小グループで花植えの活動を行いました。これは昨年度も行った取組です。しかし、昨年度と違うのは、花植え作業の前に、プランターに書き込むメッセージを、自分たちで決めた日や時間、場所に集まって行うことにしたことです。グループのリーダーを中心に花植え当日までの休み時間を使って自分たちでメッセージを書き終えるようにしました。子どもたちに任せることで主体性を育て、責任を持って取り組む経験を重ねていければと考えています。



6年がリーダーとなって
メッセージを書き日を決めている様子



この後、玄関におかれたプランターへの水やりなども自分たちで行います。花を育てることで思いやりの心を育て、協力の大切さを感じ取ってくれればと願っています。

防災教育の推進に向けて

前号でもご紹介しましたように、本校は今年度「実践的防災教育総合支援事業」の指定を受け、防災教育についてこれまでの取組を振り返り、さらなる安全安心な学校を目指していきます。

6月20日に石川県教育委員会が開催した危機管理講座の内容をご紹介します。(一部抜粋)

講師 学校安全教育研究所 教授 矢崎良明氏

テーマⅠ 「いつでもどこでも起こる地震災害」

- ①日本の国土の面積は、世界全体の約0.25%。しかし、M6以上の地震の約20%は日本で起きている。
- ②石川県付近の断層帯は邑知潟断層帯や森本・富樫断層帯など密集。地震が起きてもおかしくない。
- ③従来の地震避難訓練の問題点
 - 揺れが大きいと緊急放送はできない。
 - 地震に遭遇するのは教室(机のある場所)とは限らない。
 - 揺れが収まったら校庭へ避難する。実際は出られなくなる場合も。



④改善された避難訓練

- 合い言葉は『(上から)落ちてこない』『(横から)倒れてこない』
- 日頃から様々な『落ちてこない』『倒れてこない』場所を探す。
- 緊急地震速報の報知音とともに自分で避難する場所を見つける。



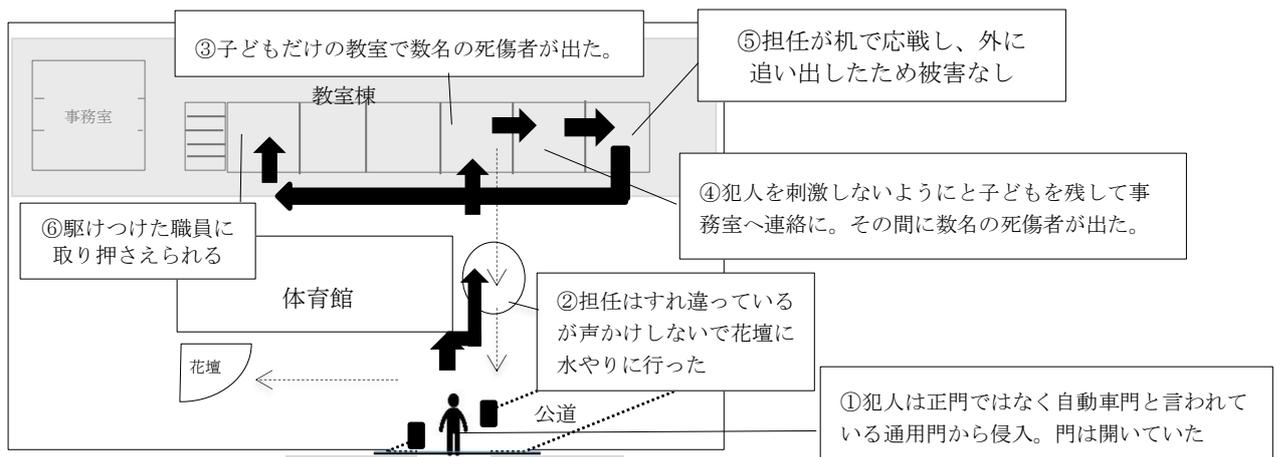
- ・地震が起ころうる時間 $365日 \times 24時間 = 8,760時間$
- ・学校で教師が子どもの指導にあっている時間(1時間) $200日 \times 6.75時間 = 1,350時間$
- 残りの時間は学校以外の場所で過ごす。

地震に遭遇する確率も学校以外の可能性が高い！！

結論：様々な場面を想定した避難訓練や避難意識が必要

テーマⅡ 「もし学校に不審者が侵入したら」

- ①16年前、重大な学校犯罪が起こった。(大阪教育大学附属池田小学校の事件より)



- ②この事件を教訓に。 **侵入させない安全管理を。**

学校は入口の管理、来校者への声かけ、子どもだけにしない、見通しのよい環境作りを心がけます。
そのため、保護者の方で、学校にご用の場合は必ず職員室に声をかけて入るようお願いします。

子どもの安全管理は保護者が第一の責任者！ **ご協力をお願いします。**

- ・見守り隊の方とのコミュニケーションが大切に。あいさつやちょっとした情報交換。
- ・出がけの声かけを習慣に。「気をつけてね。」「通学路を通ってね。」「遅れないようにね。」
- ・子どもと一緒に通学路を通って登校の様子などを聞く。危機予測と回避の方法を一緒に考える。